

令和 7 年度 学校関係者評価アンケート結果について

令和 7 年 11 月に実施されました学校関係者評価アンケートの結果について、ご報告いたします。

アンケートの回答者数

	合計	内訳						
児童	181 名	6 年 82 名	5 年 99 名					
保護者	242 名	6 年 24 名	5 年 39 名	4 年 44 名	3 年 42 名	2 年 51 名	1 年 42 名	
地域	27 名							

ご協力ありがとうございました。回答者数が多いほど信頼性の高いアンケートになります。

武蔵丘小学校のより良い教育活動のため、今後ご協力をお願いいたします。

※ 以下、「A. とても思う」を「A」、「B. 思う」を「B」、「C. あまり思わない」を「C」、「D. 思わない」を「D」、「E. わからない」を「E」と表記する。また、「A. とても思う」「B. 思う」を合計して「肯定的回答」と、「C. あまり思わない」「D. 思わない」を合計して「否定的回答」と表記する。

◎全体

児童全体では、肯定的回答が 60%以上である。肯定的回答が 80%を超えている項目も多く、多くの児童は充実した学校生活を送っていることがうかがえる。保護者全体では、全項目において肯定的回答が 70%以上である。保護者も、子どもたちは楽しく学校に通っており、先生は子どもたちをしっかりと見てくれていると感じていることがうかがえる。地域全体でも肯定的回答が約 60%以上であり、武蔵丘小学校の活動を好意的に感じているようである。武蔵丘小学校は、児童・保護者・地域いずれにおいても信頼を得ているといえる。

◎児童

5 年生 6 年生ともに肯定的回答が 80%を超えているものは、全 18 項目中以下の 10 項目である。

「1-(2)先生はめあてについて、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている」

「1-(4)授業では、考えたことを話し合ったり発表したりする機会がある」

「2-(2)学校の決まりを守らない児童に先生は注意している」

「2-(3)先生に注意されたことは、理解できる」

「3-(1)学校行事は楽しい」

「3-(2)学校行事は達成感がある」

「3-(3)先生は、児童の意欲を大切にしている」

「5-(1)先生たちは、ていねいに指導してくれる」

「6-(1)学校生活は楽しい」

「6-(4)私は、交通ルールを守っている」

先生方が熱意をもって子どもたちに向き合い、子どもたちもそれを感じ取っている結果であると思われる。学校が主体的・対話的な学びの場になっており、先生方が質の高い授業づくりに努めていることがうかがえる。また、子どもたちと共に達成感のある行事等を作り上げていっていることもうかがえる。

気になる点として、「1-(1)学ぶことが楽しい」では5年生では15.2% (C9人D6人、計15人)、6年生では20.8% (C14人D3人、計17人)が否定的回答、つまり『楽しくない』と回答している。また、「6-(2)学校が好き」では、5年生の22.3% (C7人D15人、計22人)、6年生の14.7% (C8人D4人計12人)が否定的回答、つまり『好きではない』と回答している。

この2つの項目の関連について学校の評価分析では、「学校生活の中心は授業であるため、学ぶことが楽しくないと学校も楽しくないと思われる」と述べられている。回答を照らし合わせてみると、確かに、1-(1)でDと回答した5年生6人は6-(2)でもDと回答している。学校にいる時間の約6割は授業時間である。5年生からは学習内容がさらに難しくなり、抽象的な表現も増えてくるため、授業に対するとまどいや抵抗感が生まれてくるものと思われる。また、学習は積み重ねが重要な部分もあるため、低・中学年の学習内容をその時にいかに定着させていくかの工夫も必要だと思われる。

『学校が好きではない』児童は5年生では22人、6年生では12人いる。学習以外で『好きではない』理由もあるように思われるが、今回のアンケートでは理由を見つけることができなかった。高学年は授業数も多く、委員会等の活動でも時間をとられることもある。純粋に遊べる・楽しめる時間が少ないと感じているのかもしれないし、塾や習い事などで疲れていて学校も楽しめないのかもしれない。高学年としてリーダーを期待される時期だが、どうしたいのかどうすればいいのか分からないなど、モヤモヤを抱えているのかもしれない。高学年は手をかけてあげる時期ではなくなっているが、もう少し、目をかけ続けてあげたほうが良い学年なのかもしれない。

肯定的回答の割合が相対的に低い項目の一つに「5-(2)先生たちに相談できる」がある。肯定的回答の割合は5年生74.8%、6年生は69.5%である。大人と精神的な距離をとり始め、仲のいい友達同士でつるむことが最優先となる時期なので、不思議ではない。先生たち以外にも様々な相談先があることを、折に触れて伝えておくことが肝要と思われる。

「4-(1)自分の生き方や将来のことについて、考える授業がある」の項目が肯定的回答の割合が一番低く、5年生56.6%、6年生64.6%であった。「キャリア・将来＝職業」と考えてしまうため、肯定的回答割合が低くなってしまうように思う。様々な職業の方のお話を聞いたり、どんな仕事があるのか調べたりする授業はあるはずだが、印象に残らない子もいるであろう。「生き方や将来のこと」と言われても、子どもたちにとっては漠然としすぎて考えづらいかもしれない。「キャリアパスポート※」も活用しながら、今自分が頑張っていることが未来につながっていることを伝えてほしい。

※キャリアパスポート：小学1年～高校3年まで9年間使用するポケットファイル。毎年3ポケットを使い、その年の自分の頑張ったことや将来について考えたことなどを保存していくもの。

◎保護者

全体で見ると、ほぼすべての項目で肯定的回答が80%を超えている。特に、「3-(1)学校行事は、子どもにとって楽しい」「3-(2)学校行事は、子どもにとって達成感がある」の2項目は、各学年で約95%以上が肯定的回答をしている。保護者から見ても、楽しく充実した行事が行われていることがわかる。

また、「2-(1)本校は、教員が指導したことや学校の過ごし方やルールについて子どもが理解している」「5-(1)本校の学校生活は、子どもにとって楽しい」「6-(1)本校は、学校公開や保護者会などで、児童の様子が分かる」「9-(2)本校は、避難訓練やセーフティ教室などで、子どもに安全に関する指導をしている」の4項目は、各学年で肯定的回答が85%を超えている。学校生活において、学校と保護者に信頼関係があることが伺え、学校から家庭への情報発信も適切になされていることも伺える。

気になった項目として「9-(1)本校は、安全な学校づくりをすすめている」がある。保護者全体では肯定的回答が76.1%であるが、1・2年生保護者の肯定的回答は約67%である。3・4年生は約77%、5・6年生は約87%である。子どもの学年が低いほど、学校の安全性に不安を感じているという結果が出ている。これは、去年の立川の小学校への侵入事件の影響とも考えられる。学校では毎年不審者対応訓練を行っており、また、来年度からは正門の電子錠も運用が開始されるため、この不安は解消されていくのではないかと思われる。

「9-(4)子どもは交通ルールを守っている」の肯定的回答は全体で85.1%である。児童のこの項目の肯定的回答は88.4%で保護者の回答よりも高くなっている。子どもと保護者で交通ルールの理解が異なっているのかもしれない。自転車の乗り方や歩道の歩き方、道路の渡り方など、子どもは大丈夫だと思っても保護者から見ると危ない場面もあるのではないだろうか。大人が子どもの見本となり、正しい交通ルールを何度も教える必要があるだろう。

◎地域

肯定的回答が全項目で約60%以上と高水準である。13項目中5項目、「2-(1)学校行事の内容は充実している」「3-(1)学校からのお知らせ(学校だより)などにより学校の様子が分かる」「3-(2)学校公開や道徳授業地区公開講座などで、学校の様子が分かる」「4-(1)学校の重点目標が明確である」「5-(1)地域の人や施設を教育活動に生かしている」は肯定的回答が80%以上である。学校の様子などが地域に共有され理解されていることがわかる。特に「2-(1)学校行事の内容は充実している」の肯定的回答は92.6%と高く、地域から見ても質の高い行事がなされているようだ。

「4-(2)地域の意見に対して、学校は丁寧に説明・対応している」の項目の肯定的回答は59.2%と全項目の中で一番低い。また、否定的回答が一番多いのは「6-(1)学校は、安心・安全な学校づくりを進めている」「6-(2)学校は、安全性を高めようと地域と協力している」の2項目である。学校生活の手伝いをしたい・関わりたいという気持ちの表れと取れるため、地域と学校が協力し、より良い小学校にしていくことができるのではないだろうか。

「6-(3)本校の子どもは交通ルールを守っている」では否定的回答が0%であった。子どもたちは地域の中で目立った危険な行動はしていないようである。

◎まとめ

学校関係者評価委員の分析に先駆けて、学校が自己分析を行っている。その内容はとても誠実で、数値からの傾向分析だけではなく、項目間の関連性や背景要因の考察がなされ、課題と改善策を導き出していることを高く評価したい。

今回のアンケートで、「学びの楽しさをどのように見出すか」という課題が見えてきた。授業づくりの質は高く、先生方は熱心に子どもたちに向き合っている。そのため多くの子どもたちは学ぶことが楽しいと感じている。だが、学ぶことは楽しくないと思っている子どもがいることも事実だ。担任だけでは補いきれない部分を受け止め支えていく必要がある。出来なくても、出来ない自分を理解してくれる人、一緒に考えてくれる人、頼れる人がいる環境があれば、子どもはそこから一つ伸びていくことができるのではないだろうか。子どもたちへのサポート体制が更に手厚くなり、全ての子どもが学びの中に居場所を感じられるようになることを望む。また、学校の内外に相談できる人がいること、相談できる場所があることを、常に子どもたちに示し、何かあろうと無かろうと相談してよいと伝え続けることも、子どもたちの安心感につながるのではないだろうか。

今回のアンケートでは保護者・地域共に、安全な学校づくりが足りていないとする回答が見受けられた。不審者対応研修や避難訓練なども行われており、来年度からは電子錠も運用される。安全対策の見える化と、安全対策の発信強化で改善されていくものと思われる。

武蔵丘小学校は授業でも学校生活でも子どもたちを中心として子どもたちにしっかりと向き合い、行事を大切に、地域と共に歩んでいる学校であると言える。子どもたちを中心に、保護者・学校・地域が協力し合いながら、より良い武蔵丘小学校を作っていけると思う。